

4年 道徳

主題名	正しいと思うことは自信をもって
中心内容項目	A-1 主として自分自身に関すること（善悪の判断、自律、自由と責任） ドッジボール
	令和5年 5月 1日 5時間目
	児童 4年 2組 21名
	授業者 岩井 裕

1 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値（教師の価値観）

第3学年及び第4学年「A-1 善悪の判断、自律、自由と責任」は、「正しいと思ったことは、自信をもって行うこと」とある。このねらいは第1・2学年の「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」を受けたねらいになっており、第5・6学年の「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること」につながっていく。

正しいことを判断することは、よりよく生きるうえで最も重要なことの一つであると言える。正・不正を見極め、判断し、自信をもって正しいことを実現しようとすることは、自己を実現する原動力になるものである。葛藤を超えて、正義を実現するための自信の意義について考えさせたい。

(2) 児童の実態（児童観）

児童は自分が正しいと思うことを、自信をもって行うのはよいことであり、逆にどんなことがよくないかは知識としては理解している。しかし、正しいと知りながら自信をもって行動できなかつたり、不正と知りつつ、誘惑に負けてつい行ってしまったりすることがある。4年2組の児童も、教材と同様の状況で、人によって対応を変えてしまい、間違いを正せずにいることがある。この学習を通じて、正しく善悪を判断し、周りに流されず、自分の意思で行動しようとする心情を育てたい。

【事前アンケート】

内容	結果
①自分が正しいと思ったことを自信をもって行うことができますか	できる（20%） ややできる（45%） あまりできない（30%） できない（5%）
理由	・みんなの役に立てたらうれしいから ・友達が嫌な気持ちになったら困る ・みんなと違ったことを言ったら仲間はうれしくて嫌だから ・間違えているかもという不安があるから ・もう4年生。悪いことは分かる。正しいと思ったことを行った方がよい。
②自分が正しいと思ったことを自信をもって行ったことがありますか	ある（35%） ない（65%）
どのようなことを行いましたか	・友達が悪いことをしていたときに注意した ・一緒に保健室に行ってあげた ・友達が転んだときに声をかけてあげた ・嫌なことをされたときに相手に自分の気持ちを言う
③正しいと思うことを自信をもって行うことは大切だと思いますか	思う（90%） やや思う（10%）
理由	・みんなの役に立つから ・自分に自信がついていくから ・自分のことを知ってもらうことは大切だから

(3) 教材への思い（教材観）

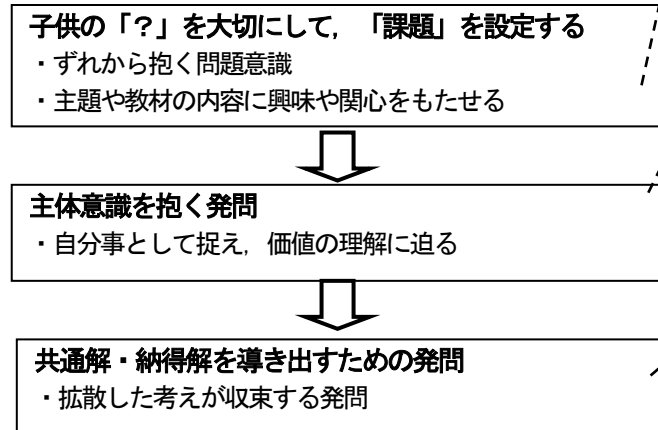
本教材では「正しいと思ったことは、自信をもって行うこと」をねらいとしている。本教材は、児童が日頃からよく遊んでいるドッジボールを題材にしており、学習への興味・関心を高めやすい内容である。昼休みに学級のみんなでドッジボールをしていたが、いく子の投げたボールに当たったはずの一郎は、「バウンドしたボールだ。」と怒ったように言う。明も当たったと言うが、周りの者はいつもいばっている一郎の味方をする。しかし、いつもはあまり口をきかない登が、帰りの反省会で正しい意見をはっきり述べてみんなに反省を促す。正義や勇気の大切さを深く感じ取れる教材である。

2 総合単元ユニットとの関係

高学年になり、人間関係も固定化しつつある中で、友達によって態度を変えたり、正しくないと感じながらも、ついつい楽しい方に流されてしまったりする様子も見られる。高学年として相応しい行動がとれるように、正しく判断し、自信をもって行動できるように1学期の総合単元ユニットのテーマを「高学年としてあたりまえのことができる4年生」と設定する。1学期は特に、「相手の立場になって考える」「自分から進んであいさつする」「進んで働く」に重点を置き、道徳だけではなく、日常的な指導や行事等にも絡めて意識化を図っていく。みんなが気持ち良く生活するためには、必ず他者を思いやる気持ちが必要である。そこが児童の心に根付くことを目指し、指導していきたい。

3 研究との関わり

（学びの主体意識をもち、道徳的な問題を自分事として捉え、自己の生き方を考えられるようにする指導の工夫）



4 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・ 自分自身が正しいと思ったことを、友達に流されることなく、自分の意思で判断し、行動しようとする心情を高める。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応（○発問 ◎中心発問）	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 ◎研修との関わり ☆教師の在り方
価値への方向付け	1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する ○正しいと思うことを自信をもって行うことは大切だと思いますか？ ・みんなのためにも大切だと思う ○正しいと思うことを、自信をもって行ったことがありますか。 ・大切だと分かっているのにできないときがある。 <<本時の課題>> 正しいことを自信をもって行うには？	☆先導者として、問題意識をもたせ、学びの主体意識を高める。 ◎問題意識をもたせ、学びの主体意識を高める。 ◎アンケート結果から、本時の学習に関心をもちさせる。 ●安心感のある雰囲気づくりを行う。 ●子供たちが安心して自分の考えを話したり、書いたりできるように傾聴することを大切にする。 ◎道徳的価値に関わる子どもの「？」を大切に課題を設定する。
	2 教材「ドッジボール」を通して、「課題」を追求する ○このクラスに点数をつけるとしたら何点ですか？ ・0点。せっかくの休み時間なのに楽しくなさそう。 ・10点。一郎がいばっているし、一郎の好き勝手やってるから ・20点。みんな一緒に遊んでいるから。 ・40点。何も言わないで見ている人も多しから。 ・50点。一郎をかばってうそを言ってる人がいるから。 ・70点。明や登のようにだめだと言ってるひとはすばらしいけど、何も言わない人もいる ○正しい行動をすることは難しいことなのか？ ・正しいと分かっているけど、相手が怖いと行動できないときがあるから難しい ・やっぱり間違えているかもしれないと思ってしまい、行動できない ・逆にいやな気持ちになったらどうしようと思ってしまう ◎言いづらいことも、勇気出して言うことがなぜ大切なのだろう。 ・きちんと言わないと、自分も後悔するし、みんなが楽しくない ・もやもやが晴れ、すっきりすると思う ・自分の思ったことを言うことで、自分の自信にもつながると思う ・相手のためでもある。間違いを教えてあげないと。	●読みの視点「このクラスに点数をつけるとしたら何点？」 ☆伴走者として、児童の発言に寄り添いつつも、ねらいに向かうために意図的な問い返しをしていく。 ◎道徳的所轄に関する理解を深める問い「中心発問」
	<<共通解>> ・自分が正しいと思ったことをすることが明るい生活につながる。 3 価値について納得解をまとめる ○今日のようなことは、ドッジボールだけのことでしょか。みなさんの生活とはつながるでしょうか。 ・相手に合わせるのではなく、みんなが楽しく遊べるように、悪いことには悪いと言える人間になりたい。 ・見て見ぬふりは一番悪い。だめなことはだめと言える人になりたい。それが自分の成長にもつながると思う。	◎この時間の学びを整理しながら共通解を整理する。 ◎後援者として、児童が今日の学びを自分の生き方につなげられるように支援する。

(3) 本時の評価について

- ・ 自分自身が正しいと思ったことを、友達に流されることなく、自分の意思で判断し、行動しようとする心情を高めることができたか。